【授業科目】急性看護学演習Ⅱ（クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅱ）

Advanced seminar of Acute Nursing Ⅱ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
吉田 和枝、小寺 直美、吉川 尚美	１年次 後　期	選　択	２	４５	演習	巻末 掲載

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	クリティカル状況における個人の選択と意思決定の問題を扱い、倫理的問題を解決するための実践力を養う。 授業は、実務家教員（吉田）が進める。 課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートにコメントをつけて返却する。事例検討のディスカッション内で返していく。
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー②、③、④の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①倫理原則と価値について理解することができる。 ②看護実践における倫理概念の明確化が理解できる。 ③倫理的相互行為と合意について深めることができる。 ④倫理的意思決定モデルを理解することができる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	配布資料および紹介する文献は授業以外にも読むことで授業の理解を深める（各60 分） 臨床での体験を授業内容に生かし、学びを深める（各60 分） 自らも文献レビューを行い、課題レポートを作成する（各120 分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回)（１単位１５回科目の場合：予習+復習 1時間／１回)（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第1 回 看護の倫理綱領に関する共通課題と倫理的意思決定を巡る課題 現代の先端医療と患者権利を巡る課題の検討 ＜倫理原則と価値＞ 第2 回 倫理の原則と看護実践上の課題：看護師の倫理的感受性 第3 回 価値の特質と価値の対立：文化的価値・宗教的価値に関連する事例検討 第4 回 価値の特質と価値の対立：個人的価値・専門的価値に関する事例検討 ＜看護実践における倫理概念の明確化＞ 第5 回 看護実践上の倫理概念の明確化（1） クリティカルケアを必要としている患者と家族のアドボカシー第6 回 看護実践上の倫理概念の明確化（2） クリティカルケア場面における高度看護実践者の責務と協働性第7 回 看護実践上の倫理概念の明確化（3） 卓越した看護師のケアリング行動に関する検証 第8 回 インフォームド・コンセントの本質と方法論 自由選択と自律性の概念、 言語的説明行為の能力についての検討 ＜倫理的相互行為と合意＞ 第9・10 回 倫理的意思決定に不可欠な構成要素 クリティカルケア領域における道徳的理論の立場と法的理論の立場に関する検討 第 11・12 回 倫理的相互行為：合意の事例検討―クリティカルケア領域における計画的治療方針の決定・変更場面における検討 第13・14 回 倫理的相互行為：合意の事例検討―クリティカルケア領域における移植医療・再生医療の場面における検討 第15・16 回 倫理的相互行為：合意の事例検討―救命救急医療の場面における検討 ＜倫理的意思決定モデルの理解＞ 第17・18 回 倫理的意思決定モデルを活用した事例検討： クリティカルケア領域の生命倫理上の事例を通してトンプソン 10 ステップモデルの有用性の検討 第19・20 回 倫理的意思決定モデルを活用した事例検討：クリティカルケア領域の医療チームとしての事例を通してジョンストンモデルの有用性の検討 第21・22 回 倫理的意思決定モデルを活用した事例検討：クリティカルケア領域の看護実践の事例を通してサラ. フライの倫理分析の有用性の検討 第23 回 クリティカルケア領域の倫理的意思決定の文献を用いて検討	第1回～第8回 吉田 第9回～第23回 吉田、小寺、 吉川
評価方法 評価基準	授業参加状況 10%、プレゼンテーション 50%、課題レポート 40%

教科書	中村美鈴、江川幸二監訳：高度実践看護統合的アプローチ、へるす出版	参考書等	適宜提示